

## 別紙（事後評価書）

## 令和4年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	1	事業分野： 共同制作支援事業
		助成対象団体名： 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>当該事業では、東京と愛知という2地域の代表的な劇場・音楽堂等において、ホール間での連携交流や協働が図られ、オペラ制作に係る劇場スタッフを養成するという目標が達成されていた。また、それぞれの地域のプロオーケストラ、コーラス団体、児童コーラス団体を起用していることは、地域活性化、音楽文化の普及啓発にもつながるものであった。</p> <p>異ジャンルの演出家を迎え、演出と音楽を効果的に融合させて制作した作品は、「新たな視点でその本質を追求する」という趣旨にも合致するものであった。</p> <p>以上のことから、「未来につながる舞台づくり、地域間文化共有機会の均等化の実現」という共同制作の意図は、おおむね達成された。</p> <p>（有効性）</p> <p>事業制作、広報の機能などを役割分担し、また、制作スタッフ、舞台技術者は両館の公演に携わるなど、連携・人材養成という目標が達成された。また、異ジャンルの演出家の起用やそれぞれの地域の実演芸術団体との密接な協働が行われたことも認められた。一部、愛知公演における入場者数が目標値には届かなかった。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画どおり実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>また、事業費については、要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費目に増減があったものの、ほぼ計画どおり執行されており、適切であったと認められる。</p> <p>（創造性）</p> <p>当該事業は「異ジャンルの演出家を迎え、その作品の本質を新たな視点で追求する」という趣旨であり、宝塚歌劇団において数々の話題作を手掛けてきた演出家上田久美子が起用された。オペラ初挑戦である上田の演出は歌手とダンサーの2人が同一の役を演じるというものであった。また、設定がイタリアから関西へと読み替えられていて、英語と日本語の字幕に加え、軽妙な関西弁意識による字幕を舞台上の直方体に投影して、演者たちの心情を補足していた。</p> <p>マスカーニ歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』&amp;レオンカヴァッロ歌劇『道化師』の題名役を演じたテノール歌手は世界トップクラスの力量をいかんなく発揮した。また、東京、愛知の両オーケストラの熱演は音楽的に成功した要因といえる。合唱団の好演も評価できる。歌手陣、ダンサー陣が異なるジャンルのアーティストから新たな接点で刺激を受けたことも、アーティスト育成の観点から特筆すべきことである。</p> <p>複数チームの合作による成果が表れたこの共同制作オペラは、我が国の舞台芸術水準を向上</p>		

## 別紙（事後評価書）

する牽引力となることが期待できるものであったと認められる。

### （総 評）

オペラ初挑戦となる演出家の演出は、オペラ界に新規性、意外性をもたらしたものであり、実演芸術の創造発信力を高める新たな創造活動と認められる。演出に複数のジャンルの舞台芸術が関わっていたことは、新たなオペラ鑑賞者の開発にもつながった。

両館の協働は事業制作における人材養成という観点から、そして、実演芸術の担い手育成という観点からも高く評価できる。

これらのことから、助成に値する文化的、経済的、社会的意義等が認められた。